

製造業の景況DIは1年3ヶ月ぶりにマイナス60台に達する

8月の情報連絡員によると、前年比の景況DI値は、製造業では景況が、非製造業では売上高、収益状況、景況のDI値が前年数値より改善した。製造業のDI値は1年3ヶ月ぶりにマイナス60台となっている。

しかしながら、実際の連絡員の報告では景況が「好転」したとする回答は全体の5%にも達しておらず、依然として回復実感を得ることはできない。

【製造業63人、非製造業87人、計150人の集計】

各項目のDIの動き（前年同月比）

	全 体	製 造 業	非製造業
売上高	😊	😞	😊
在庫数量	😊	😊	😊
販売価格	😞	😞	😞
取引条件	😞	😞	😞
収益状況	😊	😞	😊
資金繰り	😞	😞	😞
設備操業度	😞	😞	—
雇用人員	😞	😞	😞
業界の景況	😊	😊	😊

- 😊 …増加、上昇、好転
- 😞 …不変
- 😞 …減少、低下、悪化

✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	主な要望事項
鉄鋼・金属	鍍金加工業	仕事の確保が急務。緊急保証制度や雇用調整助成金で乗り切っていたが、限界に達している。
繊維・同製品	洋服製造業	当業界では、最低賃金が1,000円と定められた場合、対応は不可能である。
食 料 品	製 粉 業	地方農政事務所の廃止など、農水省組織の再編成が取りざたされているが、食料行政に混乱を来さぬよう要望する。
そ の 他	スポーツ用品製造業	新しい政権には是非、スポーツ行政に一元的に取り組む「スポーツ庁」の設置を検討してほしい。
小 売	青果小売業	天候不順の際は商社等に協力を仰ぎ、価格安定のため、輸入野菜の数量を増やすような方策をとってほしい。
	酒小売業	規制緩和の影響を検証し、問題点は是正願いたい。

平成21年
8月

業 界 の 声

製 造 業

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食 料 品	中華麺製造業	盆が明けてからの売上げ状況が悪化した。
繊維・同製品	帽子製造業	女性の流行に引きずられる形で、中折れ帽、カンカン帽が男性にもうけている。
	洋服製造業	8月に入り、多少受注はあるものの、前年と比して売上げは減少している。厳しい経済情勢の中、持ちこたえることができず廃業した組合員が数社発生した。
	ニット製品製造業	天候不順の影響から、夏物が全く振るわなかった。また、安売り量販店のファストファッションに押され、受注が大幅に減少している。
紙・紙加工品	紙製品製造業	紙製品の市場自体が縮小している。組合員の方が減収減益であり、8月は1件の倒産組合員が発生した。国等の緊急融資は一定の効果はあったが、今後返済資金を捻出できるかが大きな問題となっている。
		天候不順の影響により、青果物・飲料の流通量が減少したため、配送用段ボール部門が厳しかった。
印 刷	印 刷 業	組合員の4～6月期の売上状況は、前年比88.6%。1～3月期に比べ減少幅が拡大している。7～9月期の売上げ予測は、前年比87.3%とさらに厳しい見通しとなっている。
		商業印刷・出版関連が冷え込んでおり、先行きの不安感が増大している。
化学ゴム	プラスチック製品製造業	前月に続き低調。前年比で売上げは80～90%であった。
	ゴム製品製造業	一部の組合員では前年比の売上げが80%まで回復した組合員も出てきたが、大部分は60%程度である。未だ先行きの見通しが立たない。
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	販売数量は減少。資金繰りは大きく悪化している。 昔から8月は季節的に売上げの伸びない時期であったが、今年は天候不順、公共工事の先延ばし、民需の大幅ダウン等により、全くの停滞状況にある。
	生コンクリート製造業	三多摩地区は30%以上。城東地区は40%以上、売上げが減少した。
鉄鋼・金属	製 缶 業	一般缶の売上高は、前月同様、回復の兆しは見えず、組合員の一部はさらに状況が悪化している。
	鋳物製造業	組合員によって差があるものの、受注量回復のスピードが遅く、厳しい状態が続いている。特に原材料、副資材に値上げの動きがあり、益々経営を圧迫している。
	鍍金加工業	売上高、受注量ともに深刻な状況に変わりはない。減少割合は前年比50%程度まで改善したとの報告もあったが、8月に入り、再び減少しているとの声も聞かれる。今月も事業不振のため廃業した組合員が発生した。
	製 缶 業	最悪期の今年2～3月期ほどではないものの、売上高は前年比12～13%減となっている。この現状を抜け出す材料も見当たらず、先行きの不透明感が強い。
	建築金物製造業	マンション、戸建ともに建築着工件数は減少しており非常に厳しい状況にある。
	ダイカスト製品製造業	前年比では徐々に好転している。特にハイブリッド車関係の仕事を受けている組合員は忙しい一方、相変わらず金曜日を休業としている企業も多い。
一般機械	精密工具製造業	一部好転の兆しがあるものの、回復の程度は少ない。前年度並に回復するにはまだ時間を要するものと思われる。
	写真製版機材製造業	多少上向き感がある。しかしながら景気状況とは別に、デジタル化の進展により写真製版機材の売上げは減少傾向にある。
その他の製造	ガス圧接業	夏期は稼働率が上がる時期であるが、今期の稼働率は前年比で約50%となっている。ユーザーに見積書を提出しても成約に至らない状況が続いている。今後の先行きも不透明で、資金繰りが懸念される。
	工業塗装業	仕事量の回復が全く見込めず、低迷状態が続いている。新政権の景気刺激策を期待している。

平成21年
8月

業 界 の 声

非 製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸 売	電線卸売業	秋以降の大型案件の情報もなく、先行きの不透明感が強まっている。主力の中小向け工事用電線も芳しくなく、価格も低下傾向にある。
	再生資源卸売業	組合活動の一環として「エコアクション21認証」の取得に向け、組合員へ働きかけを行っている。
	青果物仲卸売業	野菜価格高騰の結果、仕入高は前年比10%増。
	セメント建材卸売業	8月の共同購買事業実績は前年比93.7%。前月に比べ売上高は増えたが、依然として前年割れである。今月も廃業組合員が発生している。
	食器卸売業	天候不順・新型インフルエンザ、選挙等が飲食店業界の不振に拍車をかけたと思われる。このため夏のかき入れ時の売上高が前年比で大きく落ち込んだ。
	木材卸売業	細かい荷動きはでているものの、業績を復活させるほどの勢いはない。
	理容用品卸売業	11月9日に開催する「TOKYO理容祭りin浅草」の成功に向けて準備会議を開催したところ、多くの組合員が参加した。組合員相互の親睦も図ることができ、組合の団結力強化にも繋がっている。
	美容用品卸売業	かすかではあるが、回復の兆候が感じられる。全国的に見ても、それぞれ実施されるイベント等の来客状況が改善傾向にある。
	紙卸売業	前年8月は、値上げ前の駆け込み需要の後を受け大幅に売上げが減少した。このため本年8月は前年比では見かけ上、売上げは大幅に増加した。ただし本格的な回復傾向に乗ったわけではなく、秋期の動向を注目している。
	玩具卸売業	夏休み商戦で善戦し、8月期の売上高は前年の水準を維持した。
	食肉卸売業	高級部位の売上げが伸び悩んでいる。収益状況も非常に厳しい。
	ニット製品卸売業	組合員企業2社が倒産。他の企業も経営状況は厳しい。資金繰りに支障を来しているケースも多い。
小 売	豆腐小売業	組合員が高齢化したため、組合事業に参画することができず、組合運営に支障を来している。
	包装材料小売業	包装資材の流通量は低水準で推移している。特に段ボールが大きく落ち込んでいる。工業用テープは回復傾向にあるが、包装用テープは依然厳しい。
	木材小売業	最悪期は抜けたようであるが、状況が改善したわけではない。
	青果小売業	長雨と日照不足の影響で品物が悪く、入荷量も減少している。タマネギ、にんじん、ジャガイモが例年に比べ20~30%高く、大きな打撃を受けた。
	自動二輪小売業	消費者に安心して二輪車を購入していただくためのルールとして業界が定めた「二輪自動車業における表示に関する公正競争規約」についてさらなる周知徹底が必要となっている。
	化粧品小売業	今月は廃業組合員が2社発生した。
	文具小売業	メーカーではエコグッズ等に力を入れているが、売上げに結びついていない。
	食品小売業	夏向け商品も前年と変わりなく動いた。日用品も多少前年割れとなった組合員も見受けられたものの、大きなマイナス要因とはならなかった。
	電器製品小売業	地域店は苦戦しているが、一般商品の減少を「オール電化機器」や「太陽光発電」等でカバーできた店は、僅かながら伸びている。主力商品では冷蔵庫がダウン。液晶テレビは台数は伸びたが単価が下落。量販店も売り上げ状況が厳しく盛んに値下げを行っているため、地域店との価格差がさらに広まっている。エコポイントについては、地域店の顧客には高齢者が多く、制度を理解しておらず、関心も低いようである。
	衣料品小売業	夏物バーゲンの売上高は前年水準に達せず、20%の落ち込みとなった。
	眼鏡小売業	消費者の買い控え傾向が一段と強まっている。
	古書籍小売業	組合員数に変動はなし。景況については改善の兆しはない。

小 売	家具小売業	売上げは前年比マイナスの状況が続く。組合員企業がどれだけ持ちこたえることができるのか不安である。
	酒小売業	組合員の廃業による脱退が止まらない。
商店街	秋葉原	エコポイント制度は冷蔵庫、エアコンの販売促進につながっていない。テレビは売上げ台数は増加しているものの、相変わらず単価がダウンしている。小型ノートパソコンの新型モデルは売れている。
	目黒	販売価格の低下が売上高、収益を圧迫しており、景況悪化に繋がっている。
サービス	廃棄物処理業	廃棄物の排出量が減少するとともに、処理価格の引き下げ圧力が強まっている。再生資源価格については中国需要の影響で、若干持ち直している。
	自動車整備業	高速道路料金、土日1,000円の影響で高速道路利用が増加していることから、車の安全点検の重要性が増している。車検と定期点検をセットで受けることの必要性を広く周知したい。
	クリーニング業	業界では2月と8月が閑散期ではあるが、今年の8月は全く仕事がないとの悲鳴にも似た声が多く聞こえる。昨年度に比べ、組合員の危機意識が大きくなっている。
	複写業	売り上げ面で若干の増加を見たが、企業努力によるものであり、待ちの姿勢の営業では達成できなかった。コストの削減に努めているが、収益状況の悪化は顕著で、受注量を増やしてカバーするより方策がない。
	飲食業	天候不順で客足が鈍い。また、昼食の「ランチ」の低価格化が進んでいるが、個人経営の店舗では限度がある。
	公衆浴場業	天候不順により、蒸暑い日が続いたにもかかわらず、利用客数は減少している。
運 送	貨物自動車運送業	全般的に荷動きは依然低迷しているが、鉄鋼（公共事業、自動車関連）は回復傾向が現れている。一方、冷夏の影響で、飲料関連は不調。数々の景気刺激策が講じられているが、その効果は未だ浸透していない。
	港湾運送業	東京港での荷の扱い量は、輸出は前年比36.5%減。輸入は19.2%減で回復の兆しは見えない。
建 設	建具工事業	昨年より確実に仕事量が減少している。今後、秋期の需要についても期待感は薄い。